

AUGUST OFFICIAL HAND BOOK 2017 SPRING

AUGUST

千の刃濤 桃花染の皇姫

* 千の刃濤、桃花染の皇姫 ショートストーリー

りんご飴の友
安西秀明

* 7月23日開催決定

トラベリング・オーガスト2017

* スタッフ対談

＊まえがき

Introduction

こんにちは、オーガストです。
初めての方、はじめまして。
何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

さて当小冊子は2017年4月30日開催のCharacter1・2017にて配布するものですが、
オーガストとしては初めて、このイベント開催前に
『グッズの事前通販』を実施してみましたがいかがでしょうか。

まずアパレル系のグッズや前例がないユニークな商品のように、
早々の売り切れや在庫が残ってしまうリスクがあるグッズも、
事前通販によって数量が見えれば作りやすくなります。
また、商品の種類が多いとイベント会場での窓口が混雑してしまうのですが、
こちらも事前通販を行い販売機会増やすことで対応ができるのではと考えました。
大きな問題がなければ、今回の「フルグラフィックTシャツ」や
「アクリルキーホルダ&スマホスタンド」のように、
キャラクターごとのアイテムを今後も継続して
ラインナップすることができるようになると思います。

「こんなグッズがほしい!」といったご要望にも、
これまで以上にお応えできそうです。
ぜひ、ご意見ご要望をお寄せください。
(例えば今回のイベントで販売した「勅神殿御朱印のれん」も、
元は昨年の冬コミでブース内装飾用に作ったものなのですが、
お客様よりいただいたご希望と
事前通販実施によって商品化が実現しました)

なお、事前だけではなく事後通販も予定しておりますので、
よろしければご利用くださいませ。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、
オフィシャルハンドブックをお楽しみください。

2017年春 オーガスト/ARIA スタッフ一同



AUGUST OFFICIAL HANDBOOK 2017 SPRING

- 3 千の刃濤、桃花染の皇姫 ショートストーリー
りんご飴の友
- 7 Android™ 版のお知らせ
- 8 トラベリング・オーガスト2017 開催決定
- 10 スタッフ対談
- 11 あとがき

りんご飴の友

安西秀明

桃花染祭の夜、美よりはいつも以上に賑わっている。店内には宗仁や古杜音、奏海の姿もあった。それを横目に、私はカウンター席でぼんやりと思いに浸る。桃花染祭の日が来るたび、一人の少女を思い出す。

あの子は今も元気だろうか。

「稲生、向こうに混ざらないの？」

宮国に肩を叩かれた。

「宮国こそ。いや、『桃花帝』と呼んだほうがいいか」

「やめて、ここにいる時はただの宮国朱璃」

宮国が苦笑しながら隣に座り、睦美を呼ぶ。

「睦美さん、あれをお願い」

「かしこまりました」

睦美が厨房へ消える。

「宮国、あれって何？」

「秘密。ふふふ、稲生にも」馳走してあげる」

悪戯めいた笑みを浮かべる宮国。不意に、宮国の笑顔が記憶の中の少女と重なった。それが呼び水となり、十年前の出来事が頭の中に蘇ってくる――



――武道場に、緊張を孕んだ静寂が満ちている。掌にじわりと汗が滲み、木刀を正眼に構え直す。対しているのは父、稲生刻庵。鋭い剣気を全身に纏い、私と同じ構えを一瞬たりとも崩さない。

「どうした」

父上の低い声に身体がすくむ。

勝てるはずがない。諦めと恐れが震えとなって身体に伝播する。握っている木刀がたたと震えた。

父上が深いため息をつく。

「稽古にならん、仕舞いだ」

「……申し訳ありません」

「弱くては何も守れん」

厳しい叱責にただ項垂れる。

身体の震えはまだ収まらない。強大な相手を前にすると、恐怖が抑えられないのだ。父上の言うとおり、これでは何も守れない。

子供なのだから、と他の武人は私を慰めてくれる。

だが、私は稲生家次期当主。並の強さでは務まらない。

どうしたら強くなれるんだろう。

考えていると、いきなり武道場の扉が開かれて数人の男が入ってきた。

あれは帝宮からの使いだ。どうしてここに？

男の一人が父上に何かを耳打ちする。すると、父上の表情が硬く引き締まった。

「汗」

「は、はいっ！」

「今日は帰れ。そして屋敷から出るな」

「え？」

命令の理由がわからず首を傾げる。

「ですが父上、今日は」

「帰って屋敷から出るなど言った。返事は」

「……はい、わかりました」

――今日は桃花染祭なのだ。

父上は使いと共に、急いで武道場を出ていく。何があつたかは教えてくれなかった。

「はあ……」

がっかりした気持ちを、大きなため息にして吐き出す。

桃花染祭、楽しみだったのに。開催は二日だけ。初

日を楽しんだ私には今日しかない。

「どうして、わざわざ今日なんだろう……」

さっきの父上は厳しい顔をしていた。家から出る

なって言い付けも理由がさっぱりだ。

……やっぱ、桃花染祭を諦めきれない。

見つからなければ問題ないよね。刀さえ差してなけ

れば目立たないはず。

父上に逆らうのは怖いけど……年に一度の桃花染祭

なんだ。

桃花染祭の夜、天京の大通りは花見客でこった返

っている。この騒がしさも桃花染祭の醍醐味だ。道端に

並んだ屋台からは、食欲を刺激する匂いが漂ってくる。さてさて、どこから攻めようか……よし、あれに決めた！

さっそく綿菓子を購入し、口に含む。

砂糖の味に口がとろける。ああ、やっぱり来てよかつた。

よし、次はあの屋台を……

「っ!？」

顔見知りの武人を見つけ、素早く裏路地に隠れる。

み、見られてないよね？

表通りは危険だ。このまま路地裏を行こう。

月明りを頼りに進んでいく。ふと、人の気配を感じて立ち止まった。曲がり角の先、数は一人。何者だろう？

人のことを言えないが、夜の路地裏にいるなんて怪しい。

角の先に、首だけ出して確かめる。

「……子供？」

そこにいたのは、俯いて座り込んでいる子供だった。

私の声が聞こえたのが、ゆっくり顔を上げる。

年齢は私と同じくらい。帽子のせいで顔は見えないが、仕立ての良い服を着ている。桃花染祭の夜に良く似合う、皇国風の典雅な衣装だ。きつと格の高い家の

子なんだろう。

「だ、誰？」

女の子が立ち上がり、身構える。

私はできるだけ笑顔になり、敵意がないことを示す。

「大丈夫、私、武人だから」



「私を捕まえにきたの?」

女の子は警戒した様子で、一步二歩と下がる。

「ま、待つて待つて、捕まえるつてどういこと?」

「私を探してたんじゃよ」

「うん、私は桃花染祭を見にきただけ」

「こんな路地裏に?」

「ああ、えーつと、実は親に内緒で外出してて、知り合いに見つかりそうになつて……」

女の子が目を丸くする。

「私も同じ。どうしても桃花染祭を見たくて、こつそり抜け出してきたの。追手から逃げてるうちに迷っちゃつて……」

追手つて……やっぱり、高貴な家がお金持ちの家の子なんだろう。ふと、父上の硬い表情が思い起こされた。もしかしたら、関係あるのかな?

思案していると、女の子が服のお尻を手で払つた。

「私、行くね。桃花染祭、まだ楽しんでないし」

女の子はさっさと歩きます。声をかけようとして、女の子の手が震えているのに気づいた。一人では不安

なのだろう。

できるだけ優しく、女の子の手を取る。

「もしよかつたら、桃花染祭一緒に回らない?」

「もし見つかつたら、一緒に怒られるかも……」

「いいのいいの。私も同じ状況なんだし、仲間だと思つて?」

実際、自分と同じく内緒で外出している少女に親近感が湧いていた。

「名前は何?」

「ごめん、言えない」

「大丈夫、私も。じゃあ、早く行こ?」

女の子の手を引いて、路地裏を進んでいく。誰かと桃花染祭を歩くのは久しぶりだ。

案内する場所を考えながら、足取りが軽くなるのを感じた。

「一度、食べ歩きしてみたかつたの?」

ご満悦な様子で、女の子はたこ焼きをべろりと平らげた。家を出てから何も食べてなかつたらしい。

「ねえねえねえ、次はあれにしない?」

女の子が肩をバシバシ叩いてきた。指差す屋台には『りんご飴』という暖簾が下がっている。

「食べたい?」

「……!」

こくこくと頷く女の子。二人でお金を払い一緒にりんご飴を買つた。

それは艶やかな光沢を放ち、赤々と輝いている。寶石のような見た目が私は好きだつた。そのうえ食べられるなんて最高の甘味だ。

女の子も無邪気な笑顔でりんご飴を見つめている。

「そろそろ、落ち着いて花見をしようか」

「うん、ちよつと疲れちゃつた」

「じゃあ、こつちに来て」

女の子を引き寄せる。

「え? なに?」

「特等席に案内」

「へ? ……ひやあああつ!?」

女の子を横抱きにして高層建築の壁を駆け上がる。あつという間に屋上に達し、女の子を下ろした。

「いきなり怖いことしないで! 泣くかと思つた!」

「ごめんごめん。でも、ほら」

天京の景色を指差す。

夜も更け、街では桃色のぼんぼりが無数に灯つている。天京全体が淡い桃色の光に包まれているかのようだ。

「綺麗」

「ここが上がつたのは内緒ね。人を抱いて跳ぶなつて言われてるから」

「もちろん。私とあなただけの秘密」

夜風に前髪を揺らし、女の子が言う。露わになつた顔に悪戯っぽい笑みが浮かんでいた。

秘密を共有して笑いあふこの瞬間が、たまらなく楽しい。私たちは互いの名前すら知らない。それでも、私たちはきつと友達だ。

「りんご飴、食べましょ。ここなら百倍美味しくなりそう」

「ふふ、大げさ」

りんご飴の包装をほどいて口に運ぶと、強い甘味が舌の上に広がつた。女の子も飴の甘さに陶然となつている。

「うう、こんなの初めて」

「冷やしてから切つて食べると、もっと美味しいんだよ」

「ほん!?」

「うん、飴と林檎の部分を一緒に食べるの」

「食べたいなあ」

女の子が瞳を輝かせた。

どうにかして食べさせてあげられないだろうか。今から屋敷に帰つて、りんご飴を冷やして……うん、何とか今日中に間に合ひそう。

「今からうちに来ない? りんご飴、冷やして食べようよ」

「いいの?」

「いいよ、友達だから」

上目遣いで聞いてくる女の子に、力強く頷く。

花が咲いたように笑う女の子。よし、善は急げ。早く屋敷に戻ろう。

女の子の手を取つて振り返る。

「……え?」

そこには、いるはずのない人が立っていた。
一切の気配を感じさせずに、まるでずっと前から私達を見ていたかのように。

——父上。

「屋敷にいろと言ったはずだ」

父上の視線が私を射貫く。

身体が動かない。心臓の鼓動が早くなる。目をそらしたいのに、そらせない。

「今すぐ立ち去れ」

緊張で返事ができない私から視線を外し、父上は女の子に優しい顔を向けた。

「こちらへどうぞ」

恭しく手を差し出す。

やっぱり、父上の目的はこの子だったんだ。武人の棟梁がわざわざ探すくらいだ、想像通り高貴な家の子なんだろう。

「父上、待ってください。彼女は私の友人です。理由も聞かずに引き渡せません」

「理由を知る必要はない」

父上が私の言葉を切り捨てた。どうあっても、事情は教えてくれないらしい。

女の子が不安げな顔になっている。きっとまだ帰りたくないんだ。私だって、このまま帰したくない。冷やしたりんご飴と一緒に食べるって約束した、大事な友達だから。

女の子の手を、一度だけ強く握る。

「約束、絶対に守るから」

「で、でも」

うろたえる女の子を下がらせて、立ち塞がる。父上が眉間に皺を寄せ、腰の刀に手をかけた。明らかに怒気を発している。

「遊びではない。聞き分けてもらう」

「……聞けません」

腹に力を込めて言うと、父上は無言で刀の柄に手を置いた。

父上は、戯れに刀を振るうことを嫌う。

本気なのだ。

あまりの殺気に指一本動かさない。

父上が一步、二歩と近づいてくる。怖い。でも戦わ

なくては。約束を守らなくては。なのに、なのに身体が動かない。

その時、私の前に女の子が躍り出た。

「待って。私は逃げないから、彼女を傷つけないで！」

毅然とした態度で言い放つ。

女の子を止めようとするが口が乾いて声が出ない。

父上は深く一礼し、女の子の手を取った。どうして私は震えているんだ。どうして身体が動かないんだ。どうして、どうして。

女の子が振り返り、涼しげな笑顔を私に向けた。

「ここまで助けてくれて有難う。——誠忠、大儀でした」

「……！」

彼女の言葉が頭の中で反響する。

心臓が一度、大きく高鳴った。全身の血が沸騰したように身体が熱くなる。震えは止まり、代わりに活力が身体を満たす。彼女が発したのは武人を燃え上らせる一言。

誠忠。

武人の本能が叫んでいる。守り抜け、刀を取れ、戦え。お前はまだまだ彼女への誠忠を果たしてなどいない。立ち上がり、私は声を発する。

「お待ちください」

「……ほう」

父上が感嘆の息を漏らし、女の子の手を離した。

「その子から離れて下さい」

「聞けぬ」

「こちらも譲れません」

「……強情な……誰に似たか」

片頬を上げて笑った父上が、腰の刀を投げて寄越す。そして、傍らに落ちていた鉄の棒を拾い、静かに構える。

「武人ならば、刀で語れ」

戦えということか。

「弱くては何も守れん」

父上の叱責が頭の中で蘇った。

——私は弱い。でも、あの子だけは守ってみせる。

でないと私は、本当に何も守れなくなってしまう。

本当に怖いのは父上じゃない。彼女を守れないことだ。

息を止め、抜刀。切っ先を父上に向けた。
震えはない。守るという信念が私の身体を支えている。

女の子に笑いかける。

「りんご飴の約束、必ずや果たしてみせます」

そう言い、父上を見据える。こちらと同じ正眼の構え。獲物は鉄の棒だが、不動の姿勢は巖を前にしたような迫力がある。

実力差は歴然。父上の攻撃を流すのも躲すのも不可能だ。勝機はただ一つ、先手必勝。風より速く、音より速く、渾身の初太刀を叩きこむ。

向き合ったまま一切の動きを止めた。互いに、初太刀の機を窺っている。

これを外せば私に勝ち目はない。

「……」

呼吸が憚られるほどの静寂。鏝迫り合いのように視線だけがぶつかる。

その時、風と共に一枚の花弁が舞い込んできた。桃の花だ。

呼吸が憚られるほどの静寂。鏝迫り合いのように視線だけがぶつかる。

その時、風と共に一枚の花弁が舞い込んできた。桃の花だ。

の花だ。



——機が訪れた。
月光の中で、花卉が美しく踊る。
桃花染の夜の奇跡か、大御神の戯れか——
花卉が父上の視線に重なった。

「ふっ！」
踏み込み、瞬間に接近。
「はあああああつっ！」
全身全霊の衝突を放つ。

狙うは喉。この一撃で勝負を決する！
「が……はっ！」
腹部に激痛が走り、呼吸が止まる。
突き出した刀は空を切り、打ち倒したかった父上の横顔は私のすぐ傍にあった。己の腹部を見ると、鉄の棒が鳩尾にめり込んでいた。

「まだ、遅い」
父上の声が聞こえた。呼吸もままならずその場に倒れ、意識が遠のいていく。辛うじて女の子が駆け寄ってくるのがわかった。

最後の気力で声を絞り出す。
「ごめん、冷やしたりんご飴……食べさせてあげると、言ったのに」
「いいのずっと待ってる、待ってるから。今日のこと忘れない。私を守るために戦ってくれて、ありがとう」
最後に見たのは、女の子の周囲に舞う無数の桃花。
ああ駄目、もう限界。ゆっくり、意識が沈んでいく。
また、いつか……会おう、ね。

翌朝 私は屋敷で目を覚ました。
父上からの重罰を覚悟していたが、なぜか一切のお咎めは無し。代わりに、昨晚のことは口外しないよう言付けられた。やはりあの子は、高貴な人物だったのだから。私に屋敷にいるよう父上が言い付けたのは、要人失踪の事件に巻き込まれなかつたから。
そして、あの子との再会が果たされることはなかった。けれど私は桃花染祭のたびに思い出す。
りんご飴の約束と、あの子の笑顔。

——私は思い出の旅から帰還した。
昔と違い、私は性格も話し方も変わった。あの子は今でも明るく生きているのだろうか。

「宮国様、お待たせしました」
「ありがと、睦美さん」
宮国が睦美から皿を受け取った。そこに載っているものを見て驚く。
「りんご……飴」

「ええ、冷やしてもらったの。りんご飴は冷やすと美味いって、昔、友達に教えてくれて」
「友達？」
「うん、一回遊んだきりだけ」

一回遊んだきりの、昔の友達？
皇家の人間は成長するまで顔を公開しない。友達と呼べる相手は中々できないはず。
そして、りんご飴。私の思い出と次々に符合している。まさか、まさか。

りんご飴を口に運ぼうとする宮国。
「宮国、ちょっと待ってくれ」
「ど、どうしたの？」
「冷やすだけじゃなく、切って食べるんだ。友達はそう言わなかったか？ 桃花染祭のあの夜に」

「桃花染祭の夜って、稲生、どうして知って……」
宮国の目がゆっくり見開かれていく。
「あの時の武人……稲生なの？」
「そうか、やはり宮国か」

宮国の反応を見て確信した。あの時の女の子は宮国朱璃。父上は、帝宮から脱走した皇姫を探していたのだ。長年の疑問が解け、心地よい解放感に包まれる。

宮国も思い出に浸るよう目を細めた。
「信じられない、私たち十年前に会ったの？」
「まさか、皇姫が帝宮から逃げ出していたなんてな」
「反省してます……だって、桃花染祭に行きたかったんだもん」

唇を尖らせる宮国だが、表情は柔らかい。きっと、私も同じような顔になっている。
「例の約束がずっと心残りだったが……ようやく果たせる」

「うん。私も十年待った」

睦美に包丁を借りて、りんご飴を切り分ける。飴に覆われた表面は艶々と輝き、熟した果肉が切り口から覗く。宮国と同時に、口に運んだ。
ぱりぱりと飴が砕け、舌の上にひんやりとした甘さと林檎の酸っぱさが広がる。
「美味しい」
宮国が微笑む。その笑顔が、あの日の少女の笑顔に重なった。

「十年越しの約束、果たしてくれて有難う。……誠忠、大儀でした」
胸の中に充足感が広がっていく。

私が宮国に誓うのは忠義だけではない。十年前の友情もまた、私と宮国を繋ぐ絆なのだ。
そうして私と宮国は、夜更けまであの日の思い出話を花を咲かせた。

完



千の刃濤 桃花染の皇姫 や 穢翼のユースティアが

Android™ 端末でお楽しみ頂けます



対応のオーガスト作品には、Android 端末用のアプリプレイ権が付属しています。
対応機種をお持ちの方は、ぜひ一度お試しください。

環境を選ばずにプレイ可能

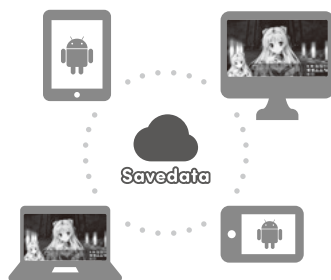
従来のデスクトップはもちろん、タブレットPCや Android タブレット/Phone 等、幅広い端末で環境を選ばずお楽しみ頂けるようになりました。



対応機種については公式サイトをご確認ください

もちろん、セーブデータは共有可能

インターネットを通じて、各端末同士でのセーブデータ共有が可能。リビングのタブレット端末で、外出先の Android 端末で、いつでもゲームの続きをお楽しみいただけます。



※ Android は Google Inc. の商標です。 ※ Android ロボットは、Google の著作権物です。

Android™ 端末対応

千の刃濤 桃花染の皇姫

安寧の日々は 灰燼に帰した

黎明から二千年、一系の皇帝により統治されてきた皇国は裏切りの手に落ちた。当たり前だったものが、次々と崩れていく毎日。時代の奔流に弄ばれながらも、人々は遠く未来を探し続ける。たった一人残された帝位継承者(宮国朱璃)は力を求めていた。仇敵を排除し、この国を取り戻さなくてはならない。過去を失った武人(鶴田宗仁)は主を求めていた。甦え上げられた白刃は、忠義のために振るわれねばならない。その日、運命に導かれ、二人は出会う。往く先にあるのは失意か祝福か、答えを知る者はどこにもいない。

陽炎が如く揺らぐ世界で、少女たちは幻想を抱き眠る。

「穢翼のユースティア」が Windows10/Android 対応の新装版となって発売されます。

悲劇は往々にして不条理なものだが、これほど不条理という形容がしっくりくる悲劇もなかった。

その日、この都市の一角が多くの人命と共に大地へと崩落した。性別、年齢、人間性、地位、経済力……犠牲者に一切の区別はなく、ただそこにいたという一歩だけが、彼らの命を奪った。なぜ死なねばならなかったのか。無数の死に何の意味があったのか。

答えはなく、残された人々に与えられたのは、輪郭のない茫沱たる喪失感だけだった。後に《大崩落》と呼ばれる悲劇だ。

あれからずっと、この都市には不条理の雨が降り続けていた。上層から下層へと、都市を濡らした水は低層へ流れ、やがて牢獄に聚り溜む。糞を増す汚水を取り除く術もないまま、囚人たちはただ喘ぐ。

いつの日か、この都市に陽が差す時が来るのだろうか。

Android™ 端末対応

穢翼のユースティア ~新装版~



トラベリング・オーガスト 2017

TRAVELLING AUGUST

2017.7.23日

東京オペラシティ コンサートホール

『トラベリング・オーガスト2017-桃幻鏡-』開催決定

来る2017年7月23日、「オーガスト」のオーケストラコンサート『トラベリング・オーガスト2017-桃幻鏡-』を開催いたします。
会場は『トラベリング・オーガスト2015』を開催した東京オペラシティコンサートホール。
「世界のコンサートホール10選」に日本のコンサートホールからただひとつ選ばれた、世界的に認められているコンサートホールです。



ActivePlanets代表コメント

皆様こんにちは。この度、『トラベリング・オーガスト2017-桃幻鏡-』を開催することとなりました。2年前に開催したトラベリング・オーガスト2015と同会場の、東京オペラシティで開催致します。
今回のコンセプトは、「物語仕立て」。最新作『千の羽濤、桃花染の皇姫』の世界をベースとし、和楽器+オーケストラという形態でお届け致します。日本(和楽器を使った音楽)と西洋

(クラシック音楽)を組み合わせた新たな角度からの歴代オーガスト作品をお楽しみいただければ幸いです。

スタッフ一同、『トラベリング・オーガスト2017-桃幻鏡-』に向けて諸々の制作、グッズ企画等の準備を進めております。楽しみにして頂けたら嬉しく思います。

皆様のお越しをお待ちしております。

ActivePlanets代表

オーガストコメント

こんにちは。オーガストです。『トラベリング・オーガスト2017-桃幻鏡-』の開催が決まり、スタッフ一同、今からどのようなコンサートになるのか大変楽しみにしています。
あの東京オペラシティという世界レベルの音響設備を持った会場で行われる、和と洋の共演。きっと私たちの想像を遙かに上回る音のスペクタクルが展開されることでしょう。

当日は、私たち開発スタッフも客席にてコンサートを鑑賞する予定です。オーガスト作品の楽曲が、どのように、どこまで膨らんでいくのか、ユーザーの皆様と一緒に体験できればと思いますので、是非会場まで足をお運びくださいませ。

オーガストスタッフ一同

開催概要

日程 2017年7月23日(日)

昼公演 Day Route ** 12:15 開場 13:00 開演

夜公演 Night Route ** 15:45 開場 16:30 開演

* 開場時間・公演時間は変更となる可能性があります。

会場 東京オペラシティ コンサートホール

チケット 全席指定 7,560円(税込)

チケットガイド: イープラス

** 2・3階席の一部を学生チケット(価格未定)としての販売を予定しております。

** 優先先行販売(抽選) **

4月30日(日)11:00 ~ 5月10日(水)18:00 予定

* 優先購入券のシリアルコード入力必須

その他、グッズ情報など
詳細は後日発表いたします。

<http://www.side-connection.com/august-concert2017/>



スタッフ対談

べっかんこう×榊原拓

#44

2017.4.11 10:30 社内にて

べっかんこう(以下「べっ」) さあ今回も始まりました。
対談の時間です。

榊原拓(以下「榊」) エイプリルフール、オーガストのオフィシャルサイトをちょっといじってみました。皆さんご覧いただけますでしょうか？

べっ 楽しんでもらえたなら嬉しいです。実際に千桃のスピノフとかやってみたら面白そう。

榊 見逃してしまった方に軽く説明すると、美よしの睦美さんが料理で問題解決！という漫画が大人気ですよー的な企画でした。

べっ TVドラマ化は20017年4月に放送予定です。

榊 ユーザーさんからも「期待してます!!」「長生きしないと」などのお声をたくさんいただきました。

べっ 睦美さん人気ありますよねー。そのスピノフは僕も見たいです。

榊 あっ、作画は夏野イオで原案僕になってますが、べっかんこうは絶賛してるだけじゃん！

べっ 頑張れイオ先生！ 応援してます！

榊 見逃しちゃったけど気になる、という方は、オーガストの公式 Twitter アカウントをさかのぼると、画像を何枚か見ることができるので探してみてくださいね。

べっ さて今回のキャラ1では原画・彩色展をやらせていただきましたが、どうでしたか？ 一番古い絵は2009年の冬コミの時のものでした。古い絵なのでちょっと恥ずかしいですね。

榊 こちらも初めてやってみたイベントなので、皆さんのご意見ご感想をぜひお伺いしてみたいところです。

べっ 社内で企画を詰めている時も、もっと作画途中の資料をクローズアップした方がいいんじゃないかと、いやいややっぱり完成した絵が大きいとか、いろいろな案は出てたんですね。

榊 CG チームにもコメントを書いてもらったんですが、こちらもあまり専門的すぎても伝わらないだろうとか、逆に興味

がある人には当たり障りの無いコメントじゃ意味がないよねとか、いろいろ考えながら進めてみました。

べっ 塗りの変化なんかを見ていただけると嬉しいです。反響次第ではまたこんな企画をやりたいですね。

榊 複製原画を売るのはどうだろうというアイデアもあったんですが、いろいろ考えた結果、今回はやめておくことにしました。「何よりでかくて綺麗な絵が欲しい」という意見も社内にはあったんですが、実際のところどうなのでしょう？

べっ こんな物が欲しいとか、こんな展示が見たいとかのご意見は案外反映されたりすることがあるので、是非お聞かせください！

榊 そして、今年の夏には再びトラベリング・オーガストが開催されますね。

べっ ですね。今年はどんな風になるんでしょう。千桃の発売もあって、和風のテストが入ってくるという話を聞いていますが。

榊 会場はまたオペラシティなので、基本はオーケストラ。それに和風の楽器が加わるのかな？ まだ正確には把握してないのですが。

べっ 一昨年も客席で聴きましたが、オペラシティは世界でも有数の音響設備を誇る素晴らしいホールなので、今から楽しみですですね。

榊 ところで僕ら、今回も会場で聴けるんだよね？

べっ 仕事が順調なら、たぶん。

榊 頑張らねば。

べっ 頑張りますよー！



* あとがき

Postscript

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

前書きで触れた「本業のソフト開発」ですが、
千桃のファンディスクと、もう一つ別の企画を同時に進めています。
後者は今回の Character1 でお披露目できるかもと考えていたのですが、
残念ながら間に合いませんでした。
気軽にお楽しみいただけるコンテンツになると考えていますので、
どうぞ楽しみにお待ちくださいませ。

「気軽に楽しめるコンテンツ」というと、どうしても内容が軽い・薄いという方向を
想像しがちですが、必ずしもそういうものばかりではないと思っています。
遊び始めること、続きを遊ぶことのハードルは低いものの、
続けていくうちに知らず知らずいつの間にか深く世界に引き込まれてい
—
そんな作品を目指していきたいと考えています。

今オーガストは、制作を進めていく中で沢山のさらなる選択肢が現れ、
デビュー当時を上回るワクワク感とチャレンジ精神に駆り立てられています。
苦しいこともあります、やっぱりゲーム制作は楽しいですね。

これからもオーガスト/ARIA をよろしくお願い致します。

2017年春 オーガスト/ARIA スタッフ一同



* AUGUST OFFICIAL HANDBOOK 2017 SPRING

企画・制作



<http://august-soft.com/>



<http://aria-soft.com/>

当小冊子の一部のページを撮影し、ブログ・SNS 等に転載していただくことは問題ございません。※全ページを複製配布することはご遠慮下さい。



AUGUST OFFICIAL HAND BOOK
2017 SPRING